

# 常染色体優性多発性のう胞腎(ADPKD)とは・・・

- 腎臓にのう胞がたくさんできて、大きくなり、徐々に腎臓の機能が低下していく遺伝性の病気です
- 40歳ごろまでは無症状で経過しますが、のう胞が大きくなると、お腹まわりが太くなってきます
- 高血圧、痛み、血尿、のう胞の感染症などがあらわれます
- これまでは特別な治療方法がなく、60歳前後で半数の方は慢性腎不全から人工透析になっておりました
- 簡単に検査、診断ができます
- 2014年3月から、のう胞の形成、病態の進行を抑える薬が認可されております
- 難病医療費助成の対象となる病気ですので医療費の負担が軽減されます

気になる方はおられませんか？  
遠慮なく受診してください



お問い合わせ先

公立能登総合病院 Bブロック外来まで

TEL:0767-52-6611(代表)

FAX:0767-52-9225